

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 5年 3月 24日(金)

seasonⅢ最終号 通算317号

◇ 春色の学校



ぽかぽか陽気に誘われたらしい。春の訪れは、例年に比べるとずいぶんと早い。白から桃へ。校内の「色の変化」が、より色濃く、春の到来を感じさせてくれる。

本校での「来春」の指標は、校庭の「荘川桜：ショウカワザクラ」だ。3月に入って膨らみ始めた荘川桜の蕾が、15日(水)の陽気で一段と丸みを帯びる。そして、翌16日(木)。この日の荘川桜の変化は、想定をはるかに超える。

まずは朝の確認。最初の驚きは蕾だ。弾けそうなほどの球体に変化している。『この様子なら、明日にでも、ちらほらと咲き始める姿が見られそうだ』と所見。ところがである。

ものの2時間後には、明らかな変化が見られた。

下の写真、特に右側・中央部あたりに着目してほしい。



3月15日(水)



10時ごろ

風がなく、ひときわ温かさが感じられたこの日。たった2時間で数輪が開花した。さらに、2時間おきに撮影したのが下の写真。



12時ごろ



14時ごろ

連鎖反応のように、時間を追って次々と開花させていく「荘川桜」に驚きだ。

変化に気付かぬまま、一夜にして開花し、その変貌ぶりに驚かされてきた「桜」。この歳にして、桜の開花は穏やかな日中で、次々と蕾が開くことを知る。

冬の間にごっと力を溜め、ほんの一時で溜め込んだ力を開花に結びつける桜。ずっと努力を重ねてきた受験生への合格の知らせに、「サクラサク」が使われるのも、こくりと頷ける。

荘川桜の開花は、例年になく早い。いつもなら、咲き始めるのはずっと先だ。そして、三分咲(17日・金)➡五分咲(18日・土)➡八分咲(19日・日)と、段階的な開花変化も早かった。そして、これ以上ない絶好の好天日となった20日(月)、本校の第76回卒業証書授与式。

本校の自然は、粋なことをする。

荘川桜は、【満開】でこの日を迎える。

と言うより、この日に満開を合わせたかのような、見事な様変わりであった。



蕾のない見事な満開だ。卒業という門出にふさわしい華やかな演出。登校時の6年間、毎日、目にしてきた荘川桜の応援を受けて、卒業生は巣立っていった。

そして、令和4年度修了式の今日、荘川桜は満開をそのままに、学校に残り、進級する1年生から5年生に向けて、またまた粋な計らいをする。

桜の花の間隙から、ほんのりと顔をのぞかせた若葉。メッセージを備えた小さな変化。来年度、新学年で頑張る決意を固めた新2年生から新6年生への応援だ。



荘川桜に続くは、桜階段の「ソメイヨシノ」。ご覧のように、今は二分咲きと言ったところか。

そして4月6日。

満開の「ソメイヨシノ」が8名の新入生を迎え、小さな若葉が、R5年度の全校児童を応援する。